ふるさと米子 探検隊

第21号　鉄道の町、米子の巻

米子市立図書館　編刊／2019.3　TEL0859-22-2612　FAX0859-22-2637　http://www.yonago-toshokan.jp

山陰鉄道について

みなさんは家族で旅行をするときどんな方法で行きますか？飛行機、車、電車、船　今はいろんな乗りものを選んで行くことができます。では、今のように乗りものがない時代の人たちはどうしていたのでしょう？江戸時代までさかのぼると、馬、船、徒歩しか方法がありませんでした。きちんとした道もなく、天気に左右され、たくさんの時間とお金がかかりました。明治時代になると日本の近代化が進んでいきます。日本全国で鉄道の敷設[1]がはじまり、安くて速くて安全な鉄道は人びとの生活を大きく変えていきました。

今回の探検隊では、なぜ米子が鉄道の町といわれるようになったのか、鉄道ができて米子の町がどのように変わっていったのか学んでみましょう！

探検隊の参考資料

図書館には、みんなの探検を助けてくれるたくさんの資料があります。

- 「新修 米子市史 5巻」 米子市史編さん協議会 // 編 2000年 Y224/Y19/5D
- 「ふるさと歴史めぐり」 鳥取県教育委員会 // 編 2002年 Y20/T11-3/B
- 「山陰鉄道物語」 山﨑 弘 // 著 2002年 Y68/Y7/B
- 「山陰の鉄道」 野本 晃史 // 編著 2010年 Y686//ﾓ
- 「鉄道のまち・よなごの歴史」 米子市立山陰歴史館 // 発刊2013年 Y224/ﾃﾂ
- 「鳥取鉄道物語」 鳥取県立博物館 // 編 2012年 Y686/ﾄﾂ
- 「ふるさと歴史散歩31」 亀尾 八洲雄 // 著 2009年 Y686/ｶﾒ
- 「山陰鉄道開通記念全国特産品博覧会について」 松尾 陽吉 // 著 1988年 096.0/M2-2
- 「大山口列車空襲 大山口列車空襲被災者の会 // 著 2013年 Y223/ﾀﾞｲ
- 「後藤百年史」 100年史編集委員会 // 編 2003年 Y68/G3
- 「続・鳥取県人物伝」 新日本海新聞社 // 編 1999年 Y281/S14-2/2C
- 「米吾 悠久の記念誌」 米吾 // 編 2009年 Y673/ｺﾒ

（資料名の後の数字と記号は「請求記号」です（ラベルの番号）。資料がどこに置いてあるかを示しています。）

[1] 敷設…その場所に設置すること

山陰鉄道ができるまで（明治時代）

◎わたしたちのまちに鉄道を！

1892年(明治25年)6月「鉄道敷設法」が公布[2]され建設予定線の中に山陰線があげられました。1894年(明治27年)、山陰を東西に横断する姫路～鳥取～境線を敷設することが決定します。しかし、敷設までにはのりこえなければいけない問題がたくさんありました。まずは、鉄道敷設に反対する声がたくさんありました。「けむりで稲がかれる」「若い人が遊びに出て家の仕事をしなくなる」「米子港に愛着がある」などさまざまなものがありました。また、土地が湿地帯だったため、うめ立てる土砂のお金がないなど資金[3]面でも苦労がありました。

しかし、地域の発展のために鉄道敷設を望む人の声が強く、1900年（明治33年)、境を起点[4]に工事が始まります。境は山陰一の良港だったため資材を運ぶのにべんりなこと、弓ヶ浜が砂地で工事がしやすいことがありました。山陰は山も川も多く工事が大変でした。特に日野川の橋は洪水で何度も流され完成までに1年がかかりました。

◎ついに境～米子～御来屋間 開通

1902年(明治35年)11月1日、境～米子～御来屋間が開通しました。開通式は米子駅でおこなわれ1000人が集まる大変なにぎわいでした。沿道には国旗をふる人、ちょうちん行列をする人、花火も打ちあがり鉄道敷設をまち望んでいた人たちがたくさんいたことがわかります。

境～御来屋間は1日4往復あり、乗る定員は50名の車両でした。運ちんは、境～米子間で二等席三十二銭、三等席十八銭でした。当時の米一升(約1.5kg)が十銭でしたので、決して安くありませんでした。しかし、どの時間も満員で人気だったことがわかります。

境御来屋間汽車発着時刻及賃金表

[2] 公布…新しい国の決まりごとを広く知らせること
[3] 資金…事業に使うお金
[4] 起点…はじまるところ

①左：境・御来屋間汽車発着時刻と賃金表
②右：境～米子～御来屋間の鉄道開通米子駅に設置された祝賀大アーチ

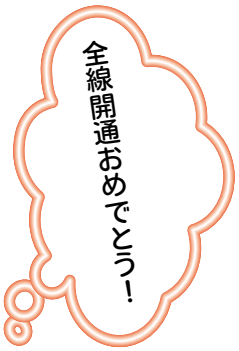
◎山陰線全線 開通

1907年(明治40年)に鳥取まで、1908年(明治41年)に松江まで路線は東へ西へのびていきます。そして、1912年(明治45年)3月1日、京都～出雲間が開通し山陰線が全線開通となりました。山陰線は日露戦争（明治37～38年）による工事の中断などもあり全線開通までに12年かかりました。しかし、今でも在来線としては全国で一番長い路線(673.8km)となりました。

全線開通の年の5月11日、開通を記念して全国特産品博覧会が米子高等女学校（現在のふれあいの里）を会場として開かれました。山陰でははじめての地方博覧会で入場者数は30万人以上でした。会場には、全国の特産品がならべられ、その他にも有名な人の講演会や動物園、サーカスなどのもよおし物もおこなわれたりしました。その後、倉吉線、伯備線、因美線、若桜線が開通していきます。

③全国特産品博覧会の正面アーチと広告等

④博覧会名誉総裁・大隈重信伯爵（写真中央）をかこんで



鉄道で変わる町（大正時代）

鉄道ができたおかげで米子の町は大きく発展していきました。まず、たくさんものを運ぶ輸送面が増えました。鉄道は船とちがい運ちんが安く、速くとどくため商工業の発展につながりました。京阪神と近くなったため、新しい商品を売ろうと都市から商工業者がたくさん来るようになりました。

また、明治時代の終わりごろからいろいろな会社もできました。米子製鋼所(明治38年)や山陰電気株式会社(明治40年)、米子海陸運送会社(明治44年)、山陰日日新聞社(明治41年)など町のようすや人々の生活がかわっていったことがわかります。また、山陰に来る観光客も増えました。1918年(大正7年)、皆生温泉が開発されたことをきっかけにカフェや映画館もたくさんできました。米子の町は繁華街[5]が立町や灘町の港中心から道笑町や法勝寺町の駅中心の町づくりへと移動していきました。そして、1924年(大正13年)に法勝寺電車が、1925年(大正14年)に米子電車が開通します。米子の人たちに電車がより身近なものになっていった時代でした。

⑤左：米子停車場（大正時代）
⑥右：米子駅（大正13年ごろ）

[5] 繁華街…町の中で一番にぎやかな場所

山陰鉄道聖地巡礼マップ（境～米子～御来屋）

境港

4 馬場崎

4 馬場崎

＊境駅跡地

もう一つの山陰鉄道はじまりの場所。現在は境港駅と名前をかえて大正町に移動したよ。

2 湊山公園

＊SL列車

蒸気機関車 D51195 が保存されているよ。デゴイチのあいしょうで明治 35 年 11 月 1 日から昭和 49 年 11 月 30 日までかつやくしたよ。

JR境線

後藤

2

1

JR山陰本線

米子

1 JR米子駅

＊１号ホーム上家

明治のはじめごろにつかわれた双頭レールがいまでもホームの支柱につかわれているよ。全国でも貴重なものだよ。

＊モニュメント

山陰鉄道はっしょうの地として駅のまわりには鉄道かんけいのものが展示してあるよ。

参考資料「山陰ゆうらり鉄道めぐり」米子市観光協会／発行

⑥ JR御来屋駅

＊山陰最古の駅舎

駅のなかや荷物おきなどが 100 年前と変わらずつかわれているよ。平成 28 年 11 月に国登録有形文化財に指定されているよ。

⑤ 大山口駅

＊慰霊碑

毎年 7 月 28 日に慰霊と平和記念のつどいがおこなわれているよ。樹齢 100 年の桜もミドコロ！

御来屋

大山口

③ 淀江駅

＊日吉神社

全国でもめずらしい神社の境内の中を列車が走るよ。

淀江

伯耆大山

JR伯備線

いろいろな場所をめぐってみよう。

鉄道と戦争、復興へ（昭和時代）

◎大山口列車空襲

明治時代は日清戦争(明治27～28年)日露戦争(明治37～38年)、大正時代は第一次世界大戦(大正3～7年)、昭和時代は第二次世界大戦(昭和14～20年)と戦争とともに鉄道も発展していきました。日本の鉄道敷設計画は当初から戦争へいく兵士や軍事物資を送ることを目的に建設されました。そのため、人や物をたくさんのせる鉄道は敵軍のいい攻撃目標でした。

1945年(昭和20年)7月28日午前7時30分ごろ、空襲警報が出ていたため大山口駅東方向ふきんに避難していた京都始発大社行き列車が米軍艦載機[6]3機による機銃弾とロケット弾で列車を爆撃しました。兵士だけでなく病人や働きにいく学生ものっていた列車は死者44名、負傷者31名以上の大変な被害がでました。このようなひどいことが二度とおこらないように、大山口駅西側には慰霊の碑が建てられています。

◎新たな鉄道の役目

1945年（昭和20年）8月15日に戦争が終わり、戦災をのがれた施設や車両を使って、復員引揚[7]や進駐軍[8]輸送、生活物資輸送がはじまります。鉄道は日本の再建と復興[9]に大きく役立ちました。

1956年(昭和31年)には経済成長により、集団就職やレジャーブームなど鉄道の役わりも変わっていきます。昭和40年代には蒸気機関車からディーゼル車[10]に移行していき、全国でSL解体[11]が進んでいきます。昭和60年代になると人々の生活がますます向上していき、一家族に一台自家用車をもつようになります。そのため、鉄道を利用する人が減っていきました。

昭和の米子駅のうつりかわり

⑦昭和はじめごろ

⑧昭和３年

⑨昭和 42 年ごろ

⑩昭和46年

⑪昭和 47 年

[6] 艦載機…軍艦にのせた飛行機
[7] 復員引揚…軍人の役目をおえた人が帰ってくること
[8] 進駐軍…アメリカの軍隊が日本に一定期間とどまること
[9] 復興…なくしたものやこわれたものを元通りにたてなおすこと
[10] ディーゼル車…エンジンを使って動く列車
[11] 解体…ばらばらにこわすこと

これからの鉄道（平成時代～）

時代が進むにつれて、鉄道はより速く快適な乗りものになっていきます。2003年(平成15年)、米子～鳥取間の高速工事が完成したことでより便利になりました。2016年(平成28年)12月、伯耆大山～出雲市間でICカードICOCAの利用もはじまりました。

近年では新たな観光列車が山陰線を走っています。2017年(平成29年)6月から瑞風が、2018年(平成30年)7月からあめつちが運行をはじめました。瑞風は、京阪神～山陰・山陽間で運行されています。静かでホテルのような内装がとても人気で注目されています。あめつちは、山陰のきれいな景色をゆっくりながめられるように走行するなど旅を楽しむことができます。

鉄道はたんなる移動手段ではなく、見たり聞いたり感じたり乗客が楽しめるように工夫されたものになってきています。

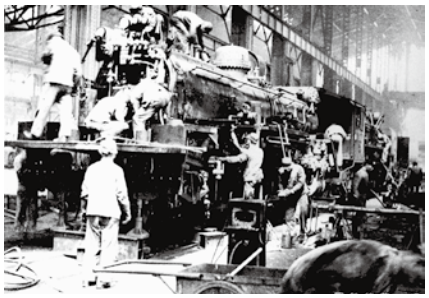
山陰鉄道ゆかりの人・もの その①

◎後藤快五郎の功績[12]

後藤快五郎は山陰鉄道の敷設にたいへん力をつくした人の一人です。米子駅や線路の土地の買いとりに動いたり、鉄道車両修理工場の移転地のうめ立て土砂を無料で提供しました。また、米子の産業と経済の発展のために市民を説得[13]しつづけました。そして、山陰鉄道記念博覧会では米子商工会会頭として会を成功させました。このような地道な活動が認められ、快五郎の名前をつけた後藤駅ができました。人の名前が駅名になることはとてもめずらしいことです。

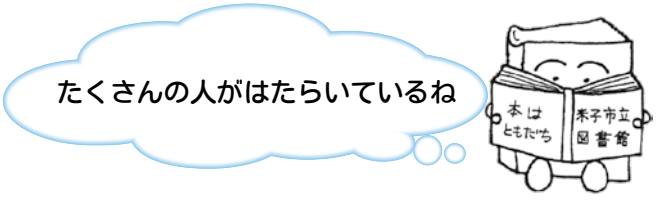
また、後藤鉄道車両修理工場も土地を提供した快五郎の名前をとったものです。1902年(明治35年)には米子駅構内にありましたが、1987年（昭和62年）に後藤駅のとなりに移動しました。現在も、日本全国でも数少ない汽車修理工場の一つです。

⑫後藤駅（明治 34 年ごろ）



⑬国鉄後藤工場

山陰線を走る列車



[12]功績…いみのあるおおきなはたらき
[13]説得…よく話してなっとくさせること

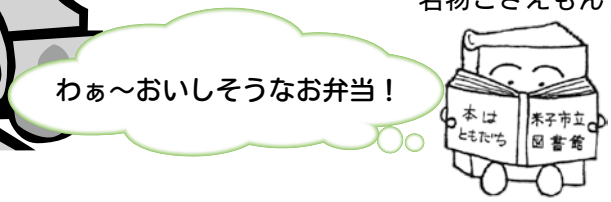
山陰鉄道ゆかりの人・もの その②

◎駅弁 米吾（こめご）

旅の楽しみの一つに駅弁があります。米吾は1873年（明治6年）から旅館（りょかん）を経営していました。鉄道建設計画の時に、米吾の内田吾吉郎（うちだごきちろう）が米子駅や線路の土地の買い取りに協力したこと、山陰鉄道敷設責任者の石丸重美（いしまるしげみ）が旅館にとまっていたことが縁（えん）で米子駅構内のお弁当の販売を許（ゆる）されます。

むかしの人たちにとっても旅は特別な日で、駅弁は楽しみの一つでした。地方の郷土食として米吾の駅弁は大変な人気でした。昔の米子駅内では売り子の「え～、べんとう、べんとう～、ビールにサイダー」の声がひびいていました。ときには、動きだした列車のお客さんに窓ごしに駅弁をわたすこともありました。戦争中は食料不足のため米がイモになったこともあったそうです。戦後は駅弁ブームもありいろいろな種類の駅弁が販売されました。現在でも、米吾の駅弁はお土産や贈りものとして親しまれています。

名物ござえもんずし（さば）
写真提供：米吾



もっと調べてみよう

- 山陰線の電車に乗ってみよう
- 山陰鉄道ゆかりの地に行ってみよう
- 山陰歴史館で貴重な展示品をみてみよう
- 他の線も（倉吉線、伯備線、因美線、若桜線）調べてみよう
- 山陰鉄道に関わりのある人物やものを調べてみよう
- 2023年にむけて米子駅は新しく変わろうとしています。昔の駅とどのように変わっていくのか調べてみよう

①～⑬の写真資料は『鉄道のまち・よなごの歴史』米子市立山陰歴史館//発刊から提供してもらいました